

令和7年度 調布市立上ノ原小学校 授業改善推進プラン

学校の教育目標	
◎よく考え進んで学習する子ども ○思いやりをもち仲良くする子ども ○健康で明るく元気な子ども	
目指す学校像(ビジョン) 例)学校像, 教員像, 児童・生徒像	
目指す学校像 【笑顔あふれる楽しい学校】 (1) 児童にとって 「よろこびのある毎日が送れる学校」 【日々】 ・学んで分かるよろこび・友達と関わるのできるよろこび・心を解放して体を動かすよろこび 【長い目で】 ・自分の成長が実感できるよろこび・自分の存在が認められるよろこび・自分の将来に希望がもてるよろこび (2) 保護者, 地域にとって 「安心して任せられる私たちの学校」 ・よく見える学校→教育活動の積極的な発信 ・安心できる学校→素早く, 丁寧で誠実な対応 ・私たちの学校→協力, 協働の取組 (来校機会確保, 学校 HP, すぐるの活用) (子どもの成長を願って共に悩み, 喜ぶ) (コミュニティ・スクール, 学校を核とした地域づくり) (3) 教職員にとって 「楽しくやりがいのある職場」 ・風通しのよい明るい職場 ・やりたいことができる職場 ・成長できる職場 (まずは挨拶, コミュニケーションをしっかりと) (できない, やらない理由を作らずにチャレンジ) (学び, 成長する機会の確保 職に誇りと責任を)	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	○児童は, 学力が高く真面目であるが, 全体的におとなしく控えめである。令和6年度体力テストの結果(学年別男女別)では, 1年男子と女子, 3年男子, 5年女子, 6年男子と女子が東京都平均の数値を下回っているが, 令和5年度調査と比較して, 改善されている。児童が自分のよさに気づき, 自分のよさを生かすことができるよう, 環境を整え, 活力に満ちた学校にすることが課題である。 ○不登校及び不登校傾向のある児童が多い。家庭, SC, 関係機関と連携した組織的な対応を進めること, また, コミュニティ・スクールとして, 「地域とともにある学校」づくりを推進することが課題である。 ○教科担任制を生かし, 校内研究やOJTを通して, 教員の指導力を向上させること。また, 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ, 主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を行うことが課題である。

教科	目指す学校像(ビジョン)を基にした 育成したい資質・能力	資質・能力を育成するための具体的取組
国語	【知識・技能】 日常生活に必要な国語について, その特質を理解し適切に使っている。 【思考・判断・表現】 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域において, 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め, 自分の考えや思いを広げている。 【主体的に学習に取り組む態度】 言葉を通じて積極的に人と関わったり, 思いや考えを広げたりしながら, 言葉がもつよさを認識し, 対話的な活動を通して, 言語感覚を養い, 言葉をよりよく使おうとしている。	○音読指導を習慣化し, 反復指導が可能な教材を活用した文字指導を行うなどして, 基礎基本の定着を図る。また, 目的をもった話し合い活動を多く取り入れ, 話す・聞く力を高める。【低学年】 ○文章の構成や登場人物の気持ち等を叙述を基に読み取ることができるよう, 児童一人一人が判断して考えをもつことができるような発問を取り入れ, 自分の考えをもって対話的活動に参加できるようにする。【全学年】 ○話型や辞書を活用したり, 文章の構成を意識させたりして, 目的に合った文章を書けるようにする。【全学年】 ○年2回の読書週間や読み聞かせ, 精読の時間を生かしながら, 読書を習慣化し, 言葉がもつよさを認識したり, 語彙を増やしたりして, 想像力や表現力を身に付けられるようにする。【全学年】
社会	【知識・技能】 地域や我が国の地理的環境, 現代社会の仕組みや働き, 地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解しているとともに, 様々な資料や調査活動を通して情報を適切にまとめている。 【思考・判断・表現】 社会的現象の特色に人と相互の関連, 意味を多角的に考えたり, 社会に見られる課題を把握して, その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり, 考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 社会的現象について, 国家及び社会の担い手として, よりよい社会を考え主体的・協働的に問題解決しようとしている。	○学習問題を立て, 課題を追究する問題解決的な学習を充実させる。【全学年】 ○地域学習を通して, 自分の生活との結び付きに気付かせるような学習活動を展開する。【3年】 ○ICT 機器の活用も含め, 資料の提示方法を工夫することで, 図や表, 資料から社会的現象を読み取り, 活用する能力を高める。【4年】 ○資料集や地図, 統計資料を活用し, 事実を読み取ったり, 根拠をもって自分の考えを表現したりできるように, 指導する。【5年】 ○資料をもとに, 読み取った事実を自分なりに分かりやすくまとめたり, 調べた事実と自分たちのつながりを考えたりする学習活動を充実させる。【6年】 ○個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して, 学習課題や学習形態を自分で選択し, 学習できる環境を整える。【全学年】
算数	【知識・技能】 ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 ・日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 日常の事象を数理的に捉え, 見通しをもち筋道を立てて考察する力, 基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし, 統合的・発展的に考察する力, 数学的な表現を用いて事象を簡潔・明確・的確かつ目的に応じて柔軟に表す力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり, 学習を振り返ってよりよい問題解決しようとして, 算数で学んだことを生活や学習に活用しようとしていたりしている。	○ドリルやプリント, タブレット(ミライシードドリルパーク)を活用し, 基礎的・基本的な概念や性質, 演算などを, 個に応じて反復練習できるようにする。【全学年】 ○具体的操作を取り入れ, 視覚的・感覚的に数や図形, 量の感覚を養えるようにする。【1年】 ○具体物を用いた活動などを通して, 場面を考えて立式したり, 豊かな図形の見方や量の理解につながったりできるようにする。【2年】 ○これまでの既習事項を活かして, 演算決定や新たな図形や量の理解ができるようにする。【3年】 ○児童同士の対話や協働的な学習によって, 学習内容が深まるように授業を展開する。【4年】 ○個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指して, 自分で考え表現したり, 教えたり, 学びあったりする機会を確保する。【高学年】
理科	【知識・技能】 自然の事象・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに, 器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察, 実験などを行い, それらの過程や得られた結果を適切に記録している。 【思考・判断・表現】 自然の事象・現象から問題を見いだし, 見通しをもって観察, 実験の方法を考えて	○日常的に観察を行い, その変化や気付き, 感想をワークシート等に記録させるようにする。【3年】 ○観察や実験のねらいを明示し, 見通しをもって問題解決ができるようにする。【4年】 ○観察や実験のめあてを明示し, その対象となる事象を明らかにするため, どのように条件を整えればよいかを考えさせる場面を設定する。【5年】 ○観察や実験のめあてを考えさせ, その対象となる事象を明らかにするための観察や実験の方法を考えさせる場面を設定する。また, その結果から自分の考えを表現させるようにする。【6年】

	実施し、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。 【主体的に学習に取り組む態度】 自然の事象・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。	○ICTを活用して個々の児童が必要に応じて、実験結果を確認しながら考察できるようにする。【高学年】 ○観察や実験で違いや変化に着目できるようにする。【中学年】 ○問いに対して予想したことを実験や観察で明らかにする。そこから得られる結果を根拠にして考察をするという一連の流れをしっかりと身に付けさせる。【高学年】
生活	【知識・技能】 活動や体験を通して、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりとして捉えて、自分自身や自分の生活のことについて考え、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や願いをもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。	○身近な人々、社会及び自然との関わりをもつことで、「あれっ」「どうして」「なるほど」の心の動きを伴って、よさや可能性に気付くことができるようにする。 ○生活上必要な習慣や技能が身に付くように、健康や安全に関わること、みんなで生活するためのきまりに関わること、言葉違いや振る舞いに関わることについて、機会を捉えながら指導する。手や体を使うこと、様々な道具を使う場を具体的に想定し、実践していく。 ○国語や算数・図工との合科的な学習を行うことで、児童の日常生活とのつながりを感じさせて授業を行う。
音楽	【知識・技能】 ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 【思考・判断・表現】 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見いだし、音楽を味わって聴いたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】 音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○児童の実態(技能差、発達段階)に応じた年間指導計画を工夫する。【全学年】 ○範唱、範奏を聴いて、楽曲の特徴や曲想等を児童同士で話し合ってつかみ、演奏に生かすよう工夫する活動を取り入れる。【全学年】 ○楽しみながら、体をつかって基礎基本の定着ができるような活動を取り入れる。【低学年】 ○自然で無理のない発声を身に付け、歌うことの楽しさを味わうことができるようにする。【中学年】 ○グループやペアなど学習形態を工夫して、児童同士が互いの表現の良さや違いを認め合い、学び合えるようにする。【高学年】
図画工作	【知識・技能】・対象や事象をとらえる造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。・材料や用具の使い方、表し方などを工夫して、創造的につくりたり表したりしている。 【思考・判断・表現】形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的な発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	○児童が主体的に活動できるよう、実態に合わせて題材を設定する。基本的な技術を実践に身につけられるよう、安全に十分配慮して授業を行う。また、グループ活動や鑑賞活動を適切に設定し、共感する心や社会性、自己肯定感などを養っていく。 ○各学年の発達段階に応じて、取り扱う材料や用具を考え、経験したことや既習のことが生かせるよう、年間指導計画を工夫する。
家庭	【知識・技能】 日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 日常生活の中から課題を見付けて課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 家族の一員として、生活をよりよくしようと課題の解決に主体的に取り組む、振り返りをしながら改善し、工夫して実践しようとしている。	○グループ活動の形態を工夫したり、実習場面を増やしたりする。 ○自分の生活と結び付けて考えさせたり、他児童との話し合い活動で経験の共有化を図ったりしながら、意欲的に実習や製作ができるようにする。 ○師範や資料の提示の仕方(掲示物やICT)を場面に応じて効果的に使い分け、基本的な技能の定着を図る。
体育	【知識・技能】 各種運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し、判断して、それらを他者に伝えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。 また、健康を大切にし、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。	○基本的な技術の行い方を知るために、児童の発達段階に応じて様々な動きを繰り返し経験させる。また、その活動を繰り返す中で、試行錯誤したり、協働的に解決できるよう、運動の特性に合わせて、めあてやルールを工夫したりして、運動の楽しさを十分に味わえるようにする。 ○児童が運動を「すること」だけではなく、「みること」「支えること」「知ること」など、自分の適性に応じて運動に関われるように支援していく。 ○教師や他の児童の模範を見る時間を設定することで、技能の構造を理解することに役立ち、上手にできる秘訣はどこにあるのか考えられるようにする。 ○ホワイトボードや拡大掲示などを効果的に活用し、活動へのハードルを下げる。誰でも簡単に取り組めるよう、視覚的にも活動を伝えられるようにする。 ○モバイル端末を効果的に活用する良さや活用方法を伝える。活用することで、自己の動きを客観的に理解したり、チームでの話し合いに活用したりするなど、対話的な活動につなげられるようにする。
外国語	【知識・技能】 言語活動を通じて知識を理解するとともに、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ったり、外国語を学ぼうとしたりしている。	○単元ごとに定められた言語材料を確実に身に付けられるよう、新しい表現や語彙に既習のものを繰り返し何度でも聞いたり話したりさせる。デジタル教科書や翻訳アプリを活用し、同じ表現や語彙を何度でも繰り返し確認できるようにさせる。 ○児童が話したくなるような目的・場面・状況を設定し、言語活動を行う。 ○毎時間友達や教師と英語を使って会話をする時間を取り、コミュニケーションを取ることの楽しさや、どのようなコミュニケーションの図り方が良いのかを実感させる。 ○振り返りシートで自身の学習状況を確認させ、何をどのように学んでいくのか考えさせる。
道徳科	(１) 道徳的諸価値について、自身の体験などを通して、そのよさや意義、困難さ、多様さなどを認めて理解している。 (２) 自分と他者との関わりについて、自身の経験を生かして感じ方や考え方と照らし合わせながら考えを深めている。 (３) 他者と対話したり協働したりすることを通して、物事を多面的・多角的に捉え、自分で判断し、表現している。 (４) 道徳的価値の形成を基盤とし、自己の生き方について考えを深めようとしている。	(１) 多様な道徳的諸価値を取り上げるため、特定の道徳的価値について絶対的なものとして扱わず、実感を伴った指導を行うことにより理解を深める。 (２) 自己の考えの深まりを認めるだけでなく、他者との意見交換の場を設ける。その関わりの中で深まっていく自己理解を大切にし、記録を貯めて自己の変容や考えの深まりを振り返るようすることで成長を実感させる。 (３) グループ内で行う意見交換や立場を分けて話し合いをすすめることで、多くの考えに触れ、物事を多角的・多面的に考え、道徳的価値を理解する。 (４) 道徳的価値に関わる事象を児童の実態に即して具体的な事例を挙げて考えさせ、自分自身の問題として受け止められるようにする。そして、自己の生き方の課題を考え、実現していこうとする思いや願いを深められるようにする。

外国語活動	【知識・技能】 言語活動を通じて、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。 【思考・判断・表現】 身近で簡単な事柄について自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 【主体的に学習に取り組む態度】 相手に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ったり、外国語を学ぼうとした りしている。	○歌やチャンツを利用し、同じ表現や語彙に楽しみながら繰り返し触れられるようにする。 ○必要に応じて、個別にタブレットで音声を確認する時間を取る。 ○児童が話したくなるような目的・場面・状況を設定し、言語活動を行う。 ○毎時間、友達や教師と英語を使って会話をする時間を取り、コミュニケーションを取ることの楽しさや、ど のようなコミュニケーションの図り方が良いのかを実感させる。 ○振り返りをしながら、学習状況の確認や次のめあての設定を行わせる。
--------------	---	--